

インドネシアの大学との学術交流協定

スリウィジャヤ大学農学部との学術協力・交流に関する覚書を締結

2016年2月24日に、スリウィジャヤ大学農学部と学術協力・交流に関する覚書を締結しました。スリウィジャヤ大学インドラヤキャンパスで行なわれた締結式には、山内章センター長が署名した覚え書きを江原宏教授（協力ネットワーク開発研究領域）が携えて出席、Erizal Sodilini農学部長の署名をもって覚書の締結となりました。これまで、ICCAEとスリウィジャヤ大学農学部では、科学研究費補助金事業による共同研究を実施しており、今後とも、共同研究、研究者交流などを進めていきます。

（江原 宏）

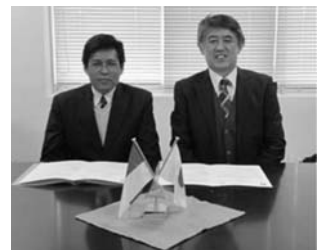


スリウィジャヤ大学農学部での調印式

ハルオレオ大学との学術協力・交流に関する覚書を締結

2016年3月22日に、ハルオレオ大学と学術協力・交流に関する覚書を締結しました。ICCAEで行なわれた締結式には、Usman Rianseハルオレオ大学長が署名した覚え書きをYulius B. Pasolon国際交流所長が携えて出席、山内章ICCAEセンター長とPasolon所長が覚え書きに署名し、握手を交わしました。現在、ICCAEとハルオレオ大学では、共同研究の一環として設置したインドネシア・クダリ市のサゴヤシパイロットファームにおいて試験研究を実施しています。調印式の後で、パソロン所長には、2015年度第4回オープンセミナーとして、「インドネシア南東スラウェシにおける陸稲品種の多様性と農業形質」と題したご講演をいただきました。

（江原 宏）



名古屋大学ICCAEでの調印式

山内章ICCAEセンター長が第60回日本作物学会賞を受賞

日本作物学会第241回講演会が平成28年3月28～29日に茨城大学（水戸）で行われ、山内章ICCAEセンター長が業績「作物根系の構造およびその可塑性の機能的意義」により、第60回日本作物学会賞を受賞しました。山内センター長は、これまで、作物個体の根の総体である根系全体を形態や機能が異なる個々の根からなるシステムとして捉え、その構造および土壌環境に対する発育的応答を定量的に解析し、その機能的意義や作物生産における役割の解明に取り組んできました。特に土壌水分ストレス条件下で発揮される作物根系の発育的可塑性が作物個体の耐旱性にとって重要な形質となっていることを明らかにした一連の業績が評価され、今回の受賞に繋がりました。これらの研究成果は、ストレス環境条件下での作物栽培技術の改善や根系形質に注目した作物育種への応用に繋がるものと期待されています。（榎原大悟）



授賞式の様子

JSPS「二国間交流事業（ケニアとの共同研究）」の採択

名古屋大学、島根大学、国際農林水産業研究センター（JIRCAS）、ケニア農畜産業研究機構およびケニア国家灌漑公社による国際共同研究として提案した「ケニアの大規模灌漑畑作地区におけるイネの塩害克服に向けた課題解決型研究」がJSPS「二国間交流事業（ケニアとの共同研究）」（2016～2017年度）に採択されました。ケニアでは、コメ増産に向けて、政府が開発した大規模灌漑畑における灌漑陸稲栽培の普及が進められています。これらの大規模灌漑畑の多くは乾燥地や半乾燥地にあり、灌漑に伴う地表への塩類集積が大きな問題となっています。本研究では、ケニアのブラ・ホラ灌漑地区において、土壌の物理化学的性質や塩の動態とイネの塩害との関係を調査し、現地に適した塩害回避栽培技術の開発に取り組みます。また、イネの耐塩性関連形質として重要な根におけるNa⁺排除能の発現に及ぼす土壌水分条件および施肥条件の影響を調査し、現地の栽培環境に適した耐塩性イネ品種に必要な生理形態的特徴を明らかにすることを目指しています。（榎原大悟）

（榎原大悟）